

沖縄だより

<http://okinawa-branch.com/>

No. 97

2019年12月19日

【発行】平和フォーラム沖縄事務所

tel/fax:0980-43-0740

mail:peaceforum.okinawa@gmail.com

山城博治沖縄平和運動センター議長に平和賞

今日うれしい知らせが届きました。

辺野古新基地建設反対闘争は6年目の闘いに突入していますが、この闘いに体を張って引っ張ってきた山城議長に、第7回平和賞が日本平和学会（会長／黒田俊郎新潟県立大学教授、会員数約700人）から授与されることが県紙に報道されました。授賞式は2020年5月に予定されています。

日本平和学会は、国家間紛争をはじめ貧困や環境・人権への脅威、差別などの人間の安全を脅かす諸要因の除去に向けて科学的に研究している団体です。

この賞は国内の平和研究、平和運動に大きく貢献した個人や団体をたたえるもので、研究や運動の一層の活性化をめざしています。

同学会理事の島袋純琉大教授は、山城さんの東村高江や名護市辺野古の新基地建設反対運動にふれ「国連が山城さんの平和運動に注目し『人権の擁護者』という敬称を与え平和運動家として大きく評価している」点が決定に寄与したのではないかと話しています。（2019年12月12日沖縄タイムス）

山城議長は「私たちの運動が評価されたすべての県民の勲章だと思うのでうれしい」と述べています。（2019年12月17日琉球新報）

沖縄のすごい男

私と山城議長との出会いは2005年10月、米軍がPAC-3を県内に配備するため米軍天願橋栈橋から陸揚げするとの決定に対して、県民の命に係わるとしてゲート前に座り込む戦術で実力阻止した闘いでのことでした。阻止行動に参加した仲間たちは、夜は空き地や草むらの上で仮眠をとりながら、まさに24時間米軍の出方を警戒しながらの座り込みとなりました。私も新聞紙を体に巻き付けて暖をとりながらの野宿を体験しました。夜中にハブが出るのではないかと不安もありましたが、40人ほどの仲間たちを信頼し闘いに参加していきました。県民の命を守るために野宿をいとわず指導するものすごい男が沖縄にいたものだと感心したものでした。三日三晩草むらや空き地に寝ずの抵抗をするというこの指導はその後の高江でも、辺野古ゲート前でも継承されています。

山城議長は高江ヘリパッド建設阻止、辺野古新基地建設反対闘争に自らが大病を患いながらも、文字通り命をかけての闘いを行い、その姿勢は今も全く変わりありません。最近はおつばら陸上自衛隊配備反対で宮古市で闘っています。

軍事基地の強化を許すな！

最近の沖縄では辺野古新基地建設反対闘争以外にも、石垣市、宮古市など自衛隊の配備が市民の反対を無視して強行されています。米軍も12月5日、米軍キャンプ・ハンセンに隣接する金武町伊芸区の民間地に照明弾3発を落下させる事件を起こしています。3発はそれぞれ、民家から50m、沖縄自動車道からわずか15m、農作業小屋から10mという至近距離に落下しており、いつ死傷者が出てもおかしくはない状況になっています。

そのほか、パラシュート降下訓練が津堅沖、嘉手納空軍基地、伊江島などで強行され、沖縄県が中止を要請し、議会で決議を上げても米軍の訓練は止まることはありません。

オスプレイが安部の海岸に墜落した事故では、事故を起こしたパイロットは不起訴となり、高江の民間地に墜落炎上した事故でも、誰一人として逮捕者が出ることもなく、やんばるの森は米軍の演習・訓練が以前にもまして激化しています。普天間第二小学校や保育園の上空には、相変わらず米軍機が飛行を続けています。秋田市のイービス・アショアの配備計画は、地元の反対で見直されることになったようですが、沖縄県民の民意は米軍占領から75年間無視され続けています。

基地の強化、米軍との軍事一体化を進める安倍政権を何としても打倒していかなければなりません！

